

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度第5回朝霞市立朝霞第六小学校学校運営協議会	
開催日時	令和8年2月6日（金）9：00～10：30	
開催場所	朝霞市立朝霞第六小学校 校長室	
出席者及び欠席者の職・氏名	学校運営委員7名、事務局2名 〈委員〉 ・渡邊聡委員長・渡邊由恵副委員長・前田敏委員 ・相澤めぐみ委員・吉山隼人委員・金子夕介委員・小島孝之（校長） 〈事務局〉 ・池崎敏博 高木智（教頭） 〈欠席者〉 ・尾池富美子委員	
議題	1 開会のことば 2 学校運営協議会会長挨拶 3 協議 1 学校長挨拶・1年間のまとめと次年度の課題について 2 その他 4 閉会のことば	
会議資料	会議次第等	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員長による確認	
傍聴者の数	2人	
その他の必要事項		

## 審議内容(発言者、発信内容、審議経過、結論等)

### 1 開会のことば

### 2 学校運営協議会会長挨拶

5回の運営協議会を本校は、実施。その中でみんなで話し合うことが結果として子供たちのためになっている。過日実施したマルエツの書き初めの展示にしても、15分おきにお店から放送を流し、観覧を勧めている。地域の方の協力の下、学校教育を推進している。結果として、子供も地域を好きになる取組になっている。これからも引き続き地域と連携した話し合いができるようにしていきたい。

### 3 協議

#### (1) 学校長挨拶・1年間のまとめと次年度の課題について

校長：本校は、地域とのつながりが深いことが一番の魅力であり、連携を大事にしている。先ほども委員長からあったが、マルエツとの協力関係では、5・6年生だけだが、350名の書き初めの展示を実施した。その際には、学校で台紙に貼り付け、マルエツでの展示・撤去、延べ30名以上、学校応援団の力を借りて行っている。これまで教員が行っていた作業を応援団の力を借りて行っている。このことは他校にない取組である。

また、まち探検や総合的な学習の時間の取組でも保護者の方が付き添いをしてきて成り立っている。学校も力をいただくだけではなくて、学校としてどう地域に貢献することができるのか、いわゆるWINWINの関係になれるのか、今後検討していきたい。その中で、今年度夏季休業中に学校運営協議会、応援団との話し合いができたことが良かった。教員とも話をさせていただき、共通理解を図ることができた。今後も熟議を繰り返しながら、先生たちとの会話を行い、地域との貢献を子供を中心に話をしていくことができると考えている。

続いて、次年度の課題となるが、次年度の学校経営方針を次のとおり考えている。

まず、国の方向性。市の方針を受けて学校経営を行っていく。

第3期朝霞市教育振興基本計画が作成されることから令和8年度4月よりそれに則った教育活動を推進していく。教員にも意識を持たせて教育を進めていく。

その中で、多様なニーズに即した教育を推進していくことが求められていることから、今年度本校に設置された「SSR」では、教室に行きづらい子どもの支援を今後も行っていく。

学校教育目標は変わらず、目指す学校を少し変更して推進していく。

自律と探究という言葉だけでは理解できないので、やや言葉を付加した。

指示待ちの子供ではなく、自分から進んで考えていくことができる子供を育てる。

地域とともにある学校であることを教員に意識を変えていくことを目標にしている。

また、地域に開かれた学校をつくりあげる。

P T Aの連携・学校応援団からの協力とともに地域への協力を行い、地域に開かれた学校を作っていく。

学校応援団が充実しているが、これだけ大々的にやっているのは本校の特色である。さまざまなお願いをしているが、学校として何が返せるか、今後の課題である。

そこで、今年の変更点としては、音楽朝会…対面を重視（ペア学年の参加）を行った。

その中で、保護者へも開放を行った。先日行った1年生の発表では、200名以上の来校があった。感想としては、「ありがとうございます」「そういう機会をもっと作ってほし

い」等、子供の活動・学習を見る機会を欲していると考えている。保護者が来ることを子供も望んでいる。しかし、教員としては、保護者の来校について、我々の負担増という考えがあった。本音としては、「昨年通りのオンラインの開催の方が良い。」と思っていることもあるかもしれない。また、運動会では、地域から「鳴子」の演舞ができないか、お願いされた。想定していなかったことだが、せっかくの申し出であると考えた。また、校内ではダンスクラブの発表を行いたいとの申し出があった。発想になかったこともあり、先生方は、昼休みにイレギュラーなことが入ってくることに難色を示していた。また、ダンスクラブの発表には「見せるに値するか」、武蔵が入った時に「ほかの団体との平等性はどうか」との声も上がった。しかし、地域や保護者の方の力を借りているのに、地域からのお願いに対して断ることは難しいのではないかと考え、判断した。また、「こんなにやっている運動会、六小だけではないか」、の声もあったが、軽重をつけていきたいと考えた。持久走・まつり・全校遠足、なくなってきている中で全校で行える活動、運動会しかないのでは、重くとらえていきたい。

働き方改革もあるが、ここは重要視していきたい。6年生の取組や活躍している姿を見て、低学年の子供の憧れの存在になってほしいと考えている。

全校朝会をオンラインではなく、一部対面にして行っていきたい。

全体の中で話を聞く習慣を作りたい。1、3、5年、2、4、6年等で実施したい。

朝の忙しいときに移動させる大変さを訴える教員もいるだろうと考えている。

教員が理解することが難しいところもあるかもしれない。対面でのやり取りの重要性を伝えていきたい。

(渡邊委員長) 音楽朝会は、子供の緊張感が伝わる。うれしそうな顔。保護者もいろいろな子供の様子を見れて楽しかった。校長先生からの話では、まずやってみよう、やってみて考える。否定的な意見に流れるのもありだが、子供にとっては緊張感、頑張る場面、引き出すのはいいのではないかと。否定的な意見が多い学校もあって、思ったことが進まない学校もある。だけど6小は、総合的な学習などで地域との連携があるからそれができているのではないかと。

閉ざされた学校の方が、管理しやすい部分もあるが、開かれた学校はリスク管理は必要であるが、教員の力量アップにもつながるし、子供の自己肯定感につながるのではないかと。

これまで以上に進めていけたらよい。

(前田委員) 賛成。やるにあたって反対はつきものである。思いを分かってくれる人や子供たちのためにやってくれる思いがあるかないかが、大事なのではないかと。

働き方改革で線引きをつけず、子供たちのために柔軟にしていく必要があるのではないかと、思いがあるかによって変わるのではないかと。全校の人数を知ることも大事ではないかと。賞状伝達も全校に見せるためにやることも大事。

後、富士見町内会では、「学校だより」が入ってこない。1中は入ってくるが、6小が入ってこない。止まっている可能性もある。

(池崎教頭) テトル配信になっていることもあり、そこから印刷になるので、郵送が若干ずれていることもあるから、タイムラグがあるかもしれない。

(渡邊委員長) 中学校、子供に持って行かせるケースがある。1日に配布の場合、難しいケースがある。行事への出席について、どうなる予定か。

(校長) 卒業式については、学校運営協議会、町内会、出席してもらう方向性を考えている。晴れ姿をみてもらいたい。

(渡邊委員) 低学年が高学年を見て、ほかの学年の保護者から6年の姿を見ることができるのはよいこと。運動会は待ち時間長いかもと思ったが、ほかの学年や上の学年を見ることで成長を感じることができる。自分の学年だけを見たい保護者もいるとは思いますが、全学年見ることができる良さがある。

(前田委員) 体育館は、全校入ることはできるか？

(校長) 今年度は離任式で実施したが、2年から6年まで入っていっぱいとなる。1学年半分くらいは入らない状況。実施したくてもできない環境はおかしいと思うが。

(前田委員) 物理的に難しいなら仕方ないか。

(校長) 卒業式も各家庭2名と人数制限ある。朝会に関しては、熱中症のリスクもあり、6、7、9月は難しい。校庭でできる時期もある。実際、運動会の全体練習は、1校時までの予定だったが、熱中症リスクを踏まえ、9時00分には、終了させた。特に、WBGTの値もあり、体調不良者が出た場合、実際どうだったんだ、と問われるケースもある。

(相澤委員) 朝マラソンはやっているか？

(校長) 8時10分に到着するように伝えているが、この時期だと8時くらいについているケースもある。10分までは、玄関前で待つことになる。実際は、1年生の歩くペースで班で歩いてきている。

体力向上の面では、「おおなわ」をこの間行っているが、クラスによっては休み時間に取組もある。20分休み、昼休みも全校の半分ずつしか出せない状況がある。

(相澤委員) 体を使う機会、SSRの取組、行き渋りのある子どもの取組、付き添いをしているケースもある。民生委員の方が積極的に行っているケースもある(八小)。親御さんが一緒に登校していることもある。

民生委員さんが一緒に登校し、教室に入れなくても話をして帰る場合もある。

応援団の方は在校生の方、民生委員の中でも時間をかけることができない場合もあれば、できることがあればやりたい。

(池崎教頭) 親と来てくれれば、いいのですが、現在でも親子10人くらいの子供と保護者で登校してくる。実際は連れてこられない保護者も多くいる。

(相澤委員) 夏休みの話し合いでも、依頼がないと入ることができない。学校と話をしたり、福祉課と話をしたりしながらやっている。

行き渋りの原因が悩みを抱えている保護者の相談先、どうしたらいいかわからない保護者もいる。子ども家庭センターにつなげていくことが求められている。SSRの周知福祉課か、センターから依頼があるから入ることができる。

親御さんに難しいケースが多い。親御さんのサポートが必要な場合も多い。発達に課題

があるお子さんへの身体調和運動の話を聞きに行ったときに、そういう情報が伝わらないことがある。チラシが伝わるのが難しい。

(渡邊委員長) 校長からのテトルの定期的な配信、いろいろなご意見を頂戴しているとあったが、やってほしい。

(校長) 市教委へテトルの件へ相談が入る。議会の一般質問を踏まえ、質問されたケースもある。保護者の気持ちを理解しつつも、情報発信として行っていく。

2 その他

(高木教頭) 学校評価について、運営協議会の皆様からの評価について。

(金子委員) ふれあい祭りについて、1中校区は、小学校が事務局を行っている。2中から辞退の情報がある。六小としての意見を来年度どうするか。いいイベントでも、集客できないこともある。校区の広さでイベントやりづらい面がある。六小まつりに予算を入れていくことができたらいいか。PTAも係を減らしているので、運営がかからない形にしたい。先生も参加する感じ・保護者も参加する感じのふれあい祭りになればよい。今後の予定について

4 閉会のことば